

ビザや言葉の問題、生活習慣についてなど、外国暮らしで直面する不安やトラブルはさまざま。そんな、誰に相談するべきかわからないといった悩みには、日本語による無料電話相談で、ダイヤル・サービス・インターナショナル社の「アメリカ生活110番」というサービスがある。KDDとNTTがスポンサーとなっているこの電話サービス、相談件数は年間1万3000件を超える。なかでも20代・30代の、ニューヨーク滞在中の日本人女性から寄せられる相談で最も多いのが、ビザに関するもの。テレホン・アドバイザーの

困ったときの110番。日本語による電話相談を利用する



今年で8年目を迎えた「アメリカ生活110番」は、電話の持つ「匿名性」と「即時性」が最大の魅力。相談に応じるスタッフが、バイリンガルの女性なものも心強い。サービス期間は祝祭日を除く月～金曜10時～16時(米国東部標準時) ☎212-869-0110

“駆け込み寺”からビザの問題まで 初心者ニューヨーカー(心強い見方

夢だけ追ってれば、すべてOKではない……それはそうだけど、自分を試すには最高の土壌、ニューヨーク。トライ精神を持った人にはこんなバックアップだって惜しまない、フェアな街なのです。

JAPANESE NEW YORKER

津々見洋子さんにお話をうかがった。「ビザ取得に関しては、最近特に厳しくなっています。なのに、来ればなんとかなる」的な考え方があまりにも多い。もう少し具体的な目的意識を持ってこちらに来ていただきたいですね。目的がなければ、ビザが取れないのももちろん、女性が生きて抜いていくことも、非常に難しいのではと思います」

質問はどんな内容でもOK。「ハウジングから恋愛、健康問題など、どんなことでもお気軽にどうぞ。孤立化を招きがちな外国生活、少しでもお役に立てれば幸いです」

弁護士抜きては生活できないアメリカでは、日本語OKの弁護士も



デビッド・シンデル弁護士は、名古屋に長期在住の経験があり、日本語に堪能。直接日本語で相談に応じてくれる。詳しくはシンデル法律事務所・久留まで(日本語で) ☎212-681-0500 FAX 212-681-0567

アメリカ社会において、弁護士の存在は非常に重要なウエイトを占める。アメリカ人の多くは個人専用の弁護士を持ち、どんな些細なことでも相談をするという。しかし、日ごろそういった習慣を持たない私たちにとっては、弁護士とのやりとりを頭を抱えてしまうのも事実。特に英語力に自信がなければなおさらだ。

そんな初心者ニューヨーカーにおすすめるのは、日本語で直接相談に応じてくれるアメリカ人弁護士。移民法、企業法、不動産関係を専門に扱っているというデビッド・シンデル弁護士のもとには、日本人女性からの相談が圧倒的に多いそう。

「労働条件に関する相談は、やはり多いですね。グリーンカードの申請をエサに、安い給料で思いっきり働かされているという方もいます。それから、不動産関係の相談でいらっしゃる方も多い。ルームメイトが家賃を払ってくれないとか、1年契約のアパートを2カ月で出したいとか」

「こちらではまず、書類証明システムに慣れてほしい、とシンデル氏。就職にしても不動産にしても、事前に必要条件を記載した書類を作ってもらおうこと。日本語ではなく、アメリカ式に頭を切り換えてください」

人材、情報を得るためにこんな会を通してネットワークの強化を



金田美智代さん
毎月「ノロ目」の日に行われる会合は、参加費25ドル。詳しくは ☎ & (FAX) 212-583-9284

「ニューヨークにいながら心を閉ざしている日本人が多いのは残念です」粘土を使ってオブジェをつくる、クレイクラフト・アーティストとして活躍中の金田美智代さん。渡米前タウン誌の編集者時代に得た人脈づくりのノウハウを、積極的に実践

創作活動のかたわら、月1回、人脈ネットワークづくりの会「異業種交流会(クリエイティブ・タレント・ネットワーク)」を催している。

「集まるメンバーは、フォトグラフアーやフード・スタイリストなど、マスコミ関係の方の参加が多いんですが、弁護士や保険業の方とか、いろんな職業の方も遊びに来ますよ」先月行われた会合は、50名以上が集まるほどの盛況ぶりだった。

「ギブ&テイクの成立が、最大のメリット。こういう人を探している」こんな情報が欲しい!と思っても、ひとりぼっちじゃ何もできないですよ。だからビジネスにもプライベートにも役立つ情報交換の場として、どんどん利用してほしいんです」

「ニューヨーク便利帳」ベテラン・ニューヨーカーもご愛用。部屋や仕事探しのノウハウから、医師、レストラン、劇場の案内まで満載。サンライズ・マート(日本食料品店)、紀伊國屋(書店)などで入手可能(32ドル)

衣・食・住。最低限生活に必要な情報は、生き抜くための必需品。頼れる知り合いがいるわけでもなく、単身ニューヨークに渡った場合、どこから情報収集を始めるか、迷うところ。簡単に手に入る、しかも日本語で手に入る情報なら、それにこしたことはない。そんなあなたのために「ニューヨーカー」第一歩に役立つのは、こんなもの!

「掲示板での情報交換」これはサンライズ・マートの掲示板。ルームメイト募集の貼り紙などのほか、「売ります・買います」の情報も。ここでベッドや家電など生活必需品を、安くそろえられる(Sunrise Mart/4 Stuyvesant St. New York, NY 10003 ☎212-598-3040)



「OCS NEWS」ニューヨークで一番ポピュラーな日本人コミュニティ紙。最近流行りの話題や、さまざまなイベント紹介のほか、求人情報も掲載。サンライズ・マート、紀伊國屋、旭屋書店など、日系の店で販売(2ドル)



イムズビルに展示された上野原遺跡の住居の骨組み



鹿兒島県出身の金田美智代さんのメルヘンチックな粘土細工(クレイクラフト)約450点に見入っていた。18日まで。

古代の集落遺跡 天神に出現！
17日 イムズでかごしまウィーク
天神に縄文・弥生時代の村が現れた。日本最大級の集落遺跡「上野原遺跡」の昨年5月の発掘をきっかけに、鹿兒島県への観光客誘致を図ろうと「かごしまウィークイン福岡」が16日、中央区天神のイムズビルで始まった。同県を訪れる年間850万人の観光客のうち4分の1は福岡県から。会場には上野原遺跡の復元住居の骨組みと、遺跡にある復元住居のパネルを展示。現在満開の指宿市の菜の花2000本も飾られ、一足早い春の香りにあふれている。会場を訪れた主婦や親子連れは、特産品が当たるゲームに興じたり、ニューヨ

1月17日 毎日新聞



▽自然のテーマパークへ

「鹿兒島へおじゃったもんせ」。鹿兒島県や同県内全九十六市町村、北さつま広域観光キャンペーン推進協議会など百二十一団体のつくる観光かごしま大キャンペーン推進協議会の一行が十六日、福岡市中央

区天神の西日本新聞社を訪れ、近くのイムズで同日から十八日まで開かれている観光フェア「探検！発見かごしま」をPRした。写真。同フェアは今年で三回目。今回は昨年、国分市で発掘された日本最大級の集落遺跡「上野原遺跡」の模型を核に、一足早い南国の春のシンボル・菜の花などを会場に飾り付けてアピール。同県観光連盟は県

1月17日 西日本新聞



ビルに再現された縄文時代の住居

天神に縄文住居

読売新聞

約九千五百年前(縄文中期)の住居が、福岡市天神のイムズビル地下二階に出現。話題を呼んでいる。鹿兒島県観光PR「探検！発見かごしま県」(県観光連盟など主催)の目玉としてお目見え。一九九六年三月に発見された日本最大級の定住集落遺跡「上野原遺跡」の住居跡から、構造を推定、復元した。縦横約二層、高さ約三層。本来は、カヤやクマザサなどで屋根をふいていたらしい。遺跡で発見された土器のレプリカなどもあり、県の埋蔵文化財センターの研究員らが縄文の暮らしについて説明。縄文時代の衣装を着けた自治体の職員らが、パンフレットや粘土細工を使って観光情報を紹介。訪れた人たちは、大昔の家に入って縄文時代の気分を味わっていた。一泊二日の鹿兒島観光旅行が当たる抽選などもある。十八日まで。入場無料。



「超短波」鹿兒島県の観光パネルなどを展示。また、同県内の特産品や祭り「かごしまウィークイン福岡」もカラフルな粘土細工で表現している。鹿兒島といえば、これまで明治維新の印象が強かった。ただだけに「ちよっとイメー」が交わりますね」との声。会場には、昨年発見された同県国分市の「上野原遺跡」の復元住居(骨組みのみ)や同県内で発掘された遺跡のパネルなどを展示。また、同県内の特産品や祭り「かごしまウィークイン福岡」もカラフルな粘土細工で表現している。鹿兒島といえば、これまで明治維新の印象が強かった。ただだけに「ちよっとイメー」が交わりますね」との声。会場には、昨年発見された同県国分市の「上野原遺跡」の復元住居(骨組みのみ)や同県内で発掘された遺跡のパネルなどを展示。また、同県内の特産品や祭り「かごしまウィークイン福岡」もカラフルな粘土細工で表現している。鹿兒島といえば、これまで明治維新の印象が強かった。ただだけに「ちよっとイメー」が交わりますね」との声。

1月17日 西日本新聞

東京・台場を粘土で表現

フジの「あったか愛ランド」PR番組

フジテレビは、春のミニキャンペーンとして、同局がある東京・台場を粘土細工で表現したPR番組「あったか愛ランド」春のフジテレビ「写真」を制作し、放送を始めた。

台場を「人が優しくなれる場所」と位置づけ、局のイメージアップを図ろうと



いつもの。クレイ（粘土）アーティストの金田みちよさんが、カラフルな粘土で社屋やレインボーブリッジのほか「めざまし君」「コニーちゃん」などの番組キャラクターを作った。

また、ピンクのコアラ「あらし」や、パンダとタヌキが合体した「ばんたぬ」など、不思議な動物も多数登場。

ひとコマずつ丁寧に撮影し、コンピュータ・グラフィックスで雲や飛行機などを合成、十五秒の番組を作り上げた。来月上旬まで放送の予定。

粘土アーティストの作品起用

フジのCM『あったか愛ランド』の舞台裏



CMの一場面。マイクを持っているのが、「スーパーニュース」の宮川キャスターと八木アナ

シユマロ粘土」と呼ばれる素材でできた人形たちで、一秒間に十五コマ、少しずつ動かして撮影された。

制作者は、サンフランシスコで活動し、昨年帰国したクレイ（粘土）アーティストの金田みちよさん。CMのテーマ「あったか愛ランド」に似合う、温かくやわらかいイメージを出すため彼女の人物たちが起用された。

金田さんは「粘土は、みんなで遊べる二十一世紀の新しいおもちゃ」と、粘土細工の魅力を話す。

CMには、ピンクのコアラ「びあら」、パンダとタ

フジテレビのスポットCM「あったか愛ランド」に

登場するカラフルな粘土人形がかわいい。軟らかい「マ

ヌキが合体した「ばんたぬ」、顔が太陽のようなライオン「さんらあ」など不思議な動物もたくさん登場する。このCMは、五月上旬まで放送の予定。

なお、フジは先ごろフジテレビクラブを設立したが、クラブの入会キャンペーンを三十一日まで、東京・台場の同局で行っている。期間中の入会者にはクラブ報創刊号をプレゼント。

1998.6.17

鹿児島新報

鹿児島新報

1998年(平成10年)6月17日 水曜日

クレイアーティスト

金田みちよさん



【メモ】かねた・みちよ。鹿児島市出身。1996年にAT&T社のDMキットでアメリカンアジアマーケット金賞を受賞。フジテレビの「めざましテレビ」や「ボンキッキーズ」などで、クレイクラフトの担当もしている。埼玉県和光市に住むが、鹿児島は世界で一番のリゾート地と誇る。35歳。

は
と
ろ
ー
く

だれもが子供のころに一度は体験した粘土細工。クレイ(粘土)アーティストは、あの油粘土や紙粘土とは異なる特殊な粘土を使う。シリコン

を使用した新種の粘土は、ふわふわと柔らかく、マッシュマロのような手触りだ。大学まで日本で過ごし、一九八六年に渡米。

作品を作る人、見る人の心和む

アメリカで粘土細工のとりこになった。きっかけは、お土産にもらった日

親子共通の遊び道具に

本の粘土だっ
たという。そ
して九年後、
本格的な「ク
レイクラフト」
のアーティスト
デビュー。独
自の着色を施
したオリジナルの粘土を使
いたオリジナルの粘土を使
い、アメリカ
最大手の電話
会社「AT&
T」をはじめ、
新聞や雑誌、
PR誌の広告
などを手掛ける。
クレイクラフトについて、「作品を作る人、見

る人双方の心を和ませてくれます。コンピュータが進む中、コミュニケーションや創造、想像性を育て、手作りのよさを伝える大切なもの」と表現した。
国内では、親子でクレイクラフトを楽しもうと開設した教室「こねこねランド」を主宰する。お父さん、お母さんが楽しく生きていけば、子供は本能で人生を肯定的につかめるんです。共通の遊び道具として、「こねこね」しながら子供のことや家族のことを話し合っ

てほしい」。
「鹿児島でも多くの人にクレイクラフトを知ってもらいたいですね」
(福岡支社)

かお

上野原フェスタで粘土細工を披露

かねだ
金田みちよさん



二十九日まで国分市の上野原遺跡周辺で開かれている上野原フェスタで、新しい素材を使った粘土細工を展示している。同時に開いた親子クレイクラブ教室も人気を集める。昨年アメリカから帰国後、生まれ故郷とのかかわりが増えている。

粘土をいじり始めたのは、アメリカに住んでいた一九九〇年、鹿児島島の友人から旧来の粘土をもらったのがきっかけ。その後、今使っているシリコンを素材にした粘土と手芸店で出会い、アーチストとして取り組むようになる。数年後には人形やシオラマな

ど、絵の具を交ぜたカラフルな粘土で作った作品がコマージュや雑誌の表紙を華やかに飾るようになる。

「マッシュマロのようにかわらかく、これならいけると思った」。粘土のやわらかさとメルヘンチックなデザインが受け入れられ、アメリカカンパシアマケット金賞を受けたアメリカ最大手の電話会社「AT&T」の広告や、フジテレビのコマーシャルなど、これまで手がけてきた。埼玉県のマッシュオンを工房にして創作活動を続ける一方、仲間とともに作った「こ

硬い世の中を少しでも軟らかくしたい

ねこねランド」の代表として親子などを対象にした粘土細工教室を各地で開く。二十三歳で鹿児島からアメリカに移住したときは「もう火山灰と暮らさなくていい」と思った。ところが、今ではクレイクラブで鹿児島島の観光宣伝に役買うほか、子供から高齢者まで頭と手を動かして楽しめるクレイクラブを鹿児島から広めようと月に一度は鹿児島市内の実家に戻って普及に努めている。

「クレイクラブで子供や高齢者が世代を超えてコミュニケーションをとれば、硬い世の中が少しでも軟らかくなると思います」。鹿児島市出身、埼玉県在住。三十五歳。
(社会部・北村茂之)

1999.6.12

埼玉新聞

粘土細工を体験

和光郵便局

和光郵便局（下牧正和局長）はこのほど、上ロピカル粘土細工体験教室を開いた。写真。同市のサングル「こねこねランド」の金田みちよ先生を講師に親子連れを含む約三十人が参加した。

十二色のカラー粘土を使い、地球儀や人形など思い思いの作品を制作。参加者



からは「手軽にオリジナルの作品ができて楽しかった」との声も聞かれた。

2001.5.19

南日本新聞

●優しくこねこね

○鹿児島市出身のクレイアーティスト金田みちよさん（三）の粘土教室受け、自分の顔を作った。が十八日、鹿児島市のビ

ッグIIであり、親子連れらうきっかけになればとなど十二人が参加。金田開いた。

○使った「マシユマロ粘土」は、樹脂とパールを混ぜ合わせたもので金田さんが考案した。荒時と午後二時から同会（二）は「学校の粘土より場である。も軽くて使いやすい」と話していた。



「ゆっくり優しく丸めて」とアドバイスする金田みちよさん（左端）

○金田さんは埼玉県和光市で教室を開く一方、人気番組「SMAP×SMAP」（KTS）の宣伝用ジョラマを担当するなど全国で活躍中。教室は鹿児島の人にも

つと粘土に親しんでも

2002. 8. 28

南日本新聞

南日本新聞 [夕刊]

2002年(平成14年)8月28日 水曜日

クレイアーティスト

金田^{かねだ}みちよさん



素直な子多い鹿児島

ものです。学校時代によく使った油粘土と違ってベタベタしないし、特有のツンとしたにおいもしません。焼かなくてもすぐ乾燥して完成するので、とても手軽です。

粘土に性別、年齢、職業、国籍は関係ありません。誰でも作ることができるんです。今回は地球を作ったのですが、丸いこの星には国境はない、みんなは同じ星に住む家族なんだということを伝えたいと思っています。

教室では大いに褒めるようにしています。子どもには褒められることで自信をつけ、目標に向かって努力する姿勢を身につけてほしい。粘土はその手段ではないんです。(鹿児島市の中原原狂で)

十八日に行われたKYTのイベント「24時間テレビ25・愛は地球を救うIN鹿児島市中央公園」で、粘土教室「こねこねランド」を開きました。みんなで粘土をこねて、家族のいい思い出を作ってもらえたと思います。

全国でイベント活動をして

おやっとなさあ

いるのですが、鹿児島は素直な子が多いですね。私が鹿児島市出身で地元だからということとは関係なく、本当にそう思います。

私が教室で使う粘土は「12色カラフルねんど」という、四年かけて独自に開発した、樹脂とパルプでできた特殊な

粘土で愛のメッセージ伝えたい



数々の作品と金田さん。手にしているのは長年作っている「地球」。

和光市のクレイアーティスト
金田みちよさん

柔らかくて優し
くて、それに何だ
か温かい……。粘
土工作のすばらし
さを、作品や教室
を通じて伝え続け
ているクレイ(粘
土)アーティスト
の金田みちよさん

「第二の脳」といわれる指
先を動かす粘土は創造力を養
います。弾力性があるので触
れていると自然にリラックス
できますよ」と金田さん。子
どもの情操教育やしつけにも
役立つそうです。

和光市駅そばの自宅で開く
教室のほか、初心者向けレッ
スンも。次回は七月四日午前
十時半～正午、和光市坂下公
民館で実施します。問い合わせ
せは金田さん(電048・4
67・4671)へ。

▽金田みちよ(かねたみち
よ)はクレイアーティスト。
昭和37年生まれ。平成4年か
らニューヨークなどでクレイ
(粘土)アート活動を開始。同
8年クレイクラブ作品がア
メリカンアシアママーケット賞
金賞を受賞。テレビ番組や雑
誌、ショッピングセンターな
どに作品を提供するかたわ
ら、粘土教室「こねこねクラ
ブ」を開いてクレイアートの
普及に努める。和光市在住。

埼玉新聞 15. 8. 19 (火)

親子粘土教室 参加者に好評

壁郵便局

越生郵便局(竹井房治
局長)はこのほど、クレ
イアーティストの金田み
ちよさんを講師に招き、
「夏休み親子粘土教室」
を開催した。写真。

最初はマシユマロのよ
うに柔らかい素材に戸惑
っていた参加者だが、講
師の丁寧なアドバイスを受
けながら、魚や地球な



ど思い思いに作品の製作
に取り組んでいた。
参加者からは「クラブ
ルでかわいい人形ができ

てうれしい。思っていた
よりも簡単だったので、
家でもやりたい」と好評
だった。

クレアアートって知ってますか？ 新聞やテレビ、雑誌などで見かける、かわいらしい粘土細工のことです。今年の米アカデミー賞長編アニメ賞を受賞した「ウォレスとグルミット」も、クレアアートをアニメーション化したものです。どうやって作るのかと思っていたら、鹿児島にクレアアートの第一人者がいるとのこと。さっそく体験してきました。

ウキウキ気分で粘土細工

2006.3.25

南日本新聞



オリジナルの大きな地球を見せる
金田みちよさん

今回挑戦したのは、「地球」と「恐竜」でした。まずは地球。丸めた青い粘土に白や水色を巻き付けた後、太いひも状にして再度丸めると、海の上を雲がたなびく地球の姿に。これに緑色をちよこちよこつつけると、地

球の完成です。金田さんの指導でさっそく制作開始。「コネコネ粘土♪」とウキウキ気分で始めたものの、思い返せば粘土を触るのは二十年ぶり。しかも私、図工が大の苦手だった(ちなみに小学校時代の成績は「2」か「3」)。作り始めたはいいものの、きれいな球体すら作れない…。手先の不器用さにあきれながらも、十分ほどでなんとか完成。きれ

い。金田さんの作品は二十八日まで、同市のダイエー鹿児島店に展示しています。かわいくて繊細な職人技を鑑賞ください。

第一人者の金田さん(鹿児島市)に入門

第一人者は鹿児島市を拠点に活動している金田みちよさん(四三)。十五年ほど前、滞在していた米国でクレアアートを始め、今ではテレビ番組「SMA P×SMA P」や「ポンキッキ

ーズ」で作品を提供するなど、国内外で活躍している方です。といっても、金田さんが使うのは油や紙といったものではなく、樹脂とパルプで作られた軟らかくて軽い粘土。赤や青、黄色など十二色あって、複数の色を混ぜ合わせて別の色を作ることもできるスグレモノなので



うめまろと金田さんがつくった恐竜と地球。左側がうめまろの、と言わなくてもお分かりでしょうが…

「それでも初めてにしては上手よ。今日から作品作ってみない？」と金田さん。それなら本格的に始めましょうか、と思った矢先「こういうのってね、作り手の人柄がよく出るの」。てことは、やはり太った体格とがさつな性格がなせるワザだったのか…。

金田さんの作品は二十八日まで、同市のダイエー鹿児島店に展示しています。かわいくて繊細な職人技を鑑賞ください。

クレアアートに挑戦

「ウォレスとグルミット」でおなじみ

2006. 5. 22

南日本新聞

◇親子ねんど教室「フルーツバスケット」 28日午前10時—正午と午後1—3時の2回。鹿児島市のかごしま県民交流センター。大人2000円(12色粘土付き)、

情報
ボックス

子ども(3歳以上)500円。おしぼり、定規など持参。予約が必要。各24人。こねこねランド=099(223)3122

2006. 7. 31

南日本新聞



■こねこねランド(鹿児島市)
粘土遊びを通して会話を

すくすく
リンク

手でこねるといふ意味と、「コミュニケーション(Communication)」、「ネットワーク(Network)」の最初の文字をとって命名。独自に開発した十二色の粘土を使い、小さな動物などのオブジェを作る教室を開く。

米国でクレイアートを始めた金田みちよさん(西ミ)が開設。地域の公民館活動や育児サークル、子ども会などでも出前講座を開き、子どもだけでなく大人も一緒に粘土で遊べる場を提供する。

「粘土を媒体にして、いろんな会話が始まる。親子の思い出づくりに活用して」と金田さん。事務局 099(223)3122。

CLOSE UP

フローズアップ

クレイアーティスト

かねだ
金田 みちよさん (44歳)
こねこねランド(鹿児島市)



2007.3.3
南日本新聞 Felia

粘土を通して

愛の輪を広げたい



▲金田さんの作品。カラフルねんどで作ったおひなさまが愛らしい。手前は地球

「子ども達の心の中を形にしてのぞけたよう」という感想が印象に残る。作品には体の調子や気持ちが表示しやすい。だから、制作中は良い状態を保つようにしている。教えるときに受講者を褒めるようにしているのもそのためだ。「褒められるとうれしいし、勇気づけられます。私も子どもたちに褒められて元気づけられています。逆にパワーをもっているんですよ」。

23歳のときに渡米し、テレビ番組や情報誌のプロデュースなど、多方面で仕事をしていた。粘土細工はその当時から趣味で楽しんでいたものだが、「自分の作ったもので、みんなが幸せになったら。クレイアートで愛を広めていきたい」と強く思うようになり、道を踏み出した。ちょうど30歳のとき。

米国で教室を開く一方、大手電話会社の広告用の作品が、コンクールで広告大賞を受賞するなど、実績を重ねてきた。クレイアートの楽しさを日本にも広めたいと、35歳のときに帰国。テレビ番組やCMで作品が起用されたり、全国各地のイベントでインストラクターを務めたりするなど、精力的に活動した。これまで、クレイアートは白い粘土に色付けするものだったが、「もっと手軽に楽しめるように」と専用のカラー粘土を開発した。

拠点を故郷の鹿児島に移したのは3年前。引き続き、ねんど教室やイベントを開催するほか、地元企業のCMで、作った人形を使って動画を作る「クレイメーション」を手がけている。「誰でもアーティストになれるのが粘土の魅力です。クレイメーションを使った子ども向けのテレビ番組作りや、クレイアーティストの育成をしていきたいです。彼らがマスコミで活躍するようになると思います」と、これから目標を語った。

プロフィール

- 62年 10月 鹿児島県生まれ
- 83年 3月 摂生短期大学広告マスコミ科卒業(現・大阪芸術大学短期大学部)
- 86年 5月 渡米
- 92年 3月 クレイアート活動開始
- 96年 5月 米大手電話会社の広告用作品が広告大賞を受賞
- 97年 8月 鹿児島、埼玉で「こねこねランド」設立
- 99年 5月 12色カラーねんどを発表
- 01年 1月 クレイアーティスト、インストラクターの養成講座を開始
- 04年 10月 株式会社を開設

今これに夢中です



「写真」

写真は趣味で撮っています。撮るのも撮られるのも好きです。集合写真が好きで、友人や知人との会食時や、習い事で

知り合った友人たちと開くパーティー、自分が代表を務めている女性の会「女神の会」の集まりなどで、よく楽しんでいます。プリントして、写っている人にプレゼントしたり、遠方に住む人には手紙を添えて送ったりしています。「思い出の記録係」みたいなものです。10年後に見るのが楽しみです。

これまで本当にたくさん撮ってきたので、写真をしまっておく箱が山積みになっているんですよ(笑)。

2007.3.3
南日本新聞 Felia

ある一日のスケジュール

- 6:30 起床、ラジオ体操、身支度、朝食
- 9:00 出勤、クレイアーティスト養成講座で教える ※途中、軽い昼食
- 15:00 イベントの打ち合わせ
- 17:00 ねんど教室の準備、作品の制作
- 19:30 帰宅、夕食
- 21:00 メールチェック、ブログ書き込み
- 24:00 就寝

お仕事DATA

- ① 資格取得にかかった費用とくになし
- ② 現在の勤務時間 イベントや教室に合わせる
- ③ 休日 基本は月曜日、イベントや教室に合わせる
- ④ これからの目標 クレイメーションを手がけたい。クレイアーティストを育てる
- ⑤ 収入 不定。自由に生活できる程度